



室蘭輪西・八丁平の塾

共生舎

非認知能力 レポート

KYOUSEISHA ANNUAL REPORT

令和7年8月 統計開始

令和8年8月版



1年間の学びの記録

2025年8月 - 2026年8月 共生舎 学習ログより

共生舎では、生徒一人ひとりが授業のたびに「今日、何を感じ、何ができたか」を振り返っています。

テストの点数や評定だけでは見えない、日々の小さな積み重ね。

この1年間で記録された **52名・1,499件**の学習ログから、子どもたちが実際にどう学び、どう育ってきたかをまとめました。

52名

記録した生徒数

1,499件

1年間の学習記録数

2,163時間

記録された総学習時間

86分

1回あたりの
平均学習時間

71%

学習満足度◎の割合

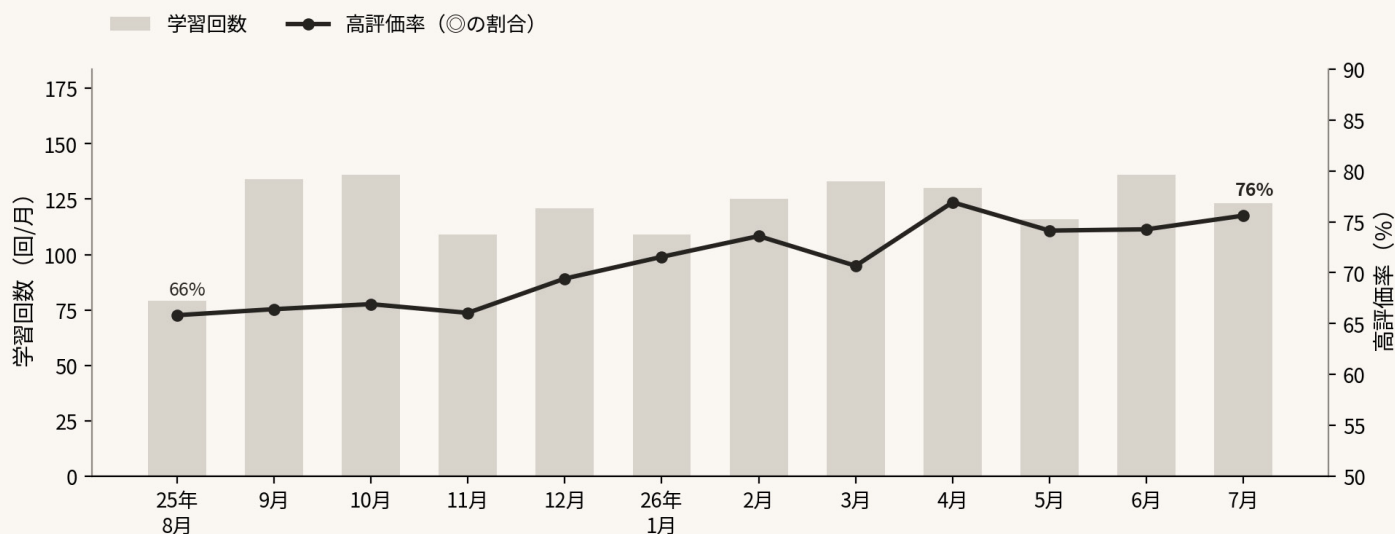
01

学びの積み重ね - 学習回数と「できた」実感の推移

月ごとの学習回数（グラフ）と、その月の振り返りで「とても良い（◎）」がついた割合（折れ線）です。

通塾を重ねるほど回数が安定し、「できた」という実感の割合も、年間を通じてゆるやかに高まっていると読み取ることができます。

Fig.1 月別学習回数と高評価率の推移



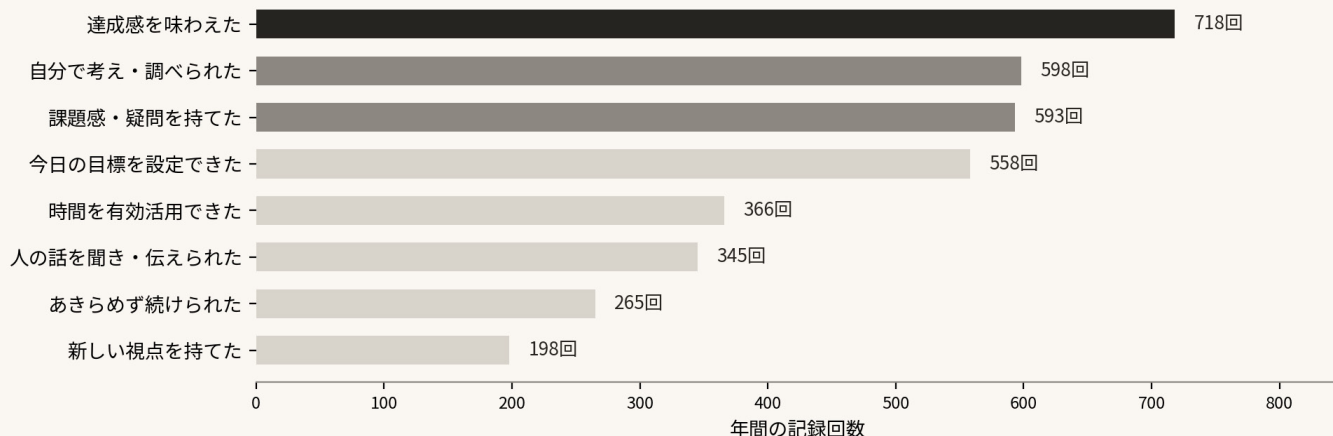


非認知能力 — この1年でよく見られた「育ちの瞬間」

当教室では、点数や評定などではわかりにくい、しかし、生きていく上で必要な自律的な思考、他者とのかかわり、課題発見・解決能力などの「非認知能力の育成」から、学力向上を期す取り組みを行っております。

授業後に、次の8項目について、該当するものをチェックしてもらくと、目標・課題設定、課題解決意識、そして達成感が上位項目となりました。このことから、知識を教わるだけでなく、**自分で考え、自分の力でできたという実感を積み重ねる**時間になっていることがわかります。

Fig.2 学習後の非認知能力の自覚



満足度の内訳 — 1年間、1,499回の授業を終えて

毎回の授業後、生徒自身がその日の学びを「◎・○・△・×」で自己評価し、振り返ります。年間を通じて**9割以上が「良い」以上の評価**となっており、「**何らかの形で学びを深めることができた**」という手応えが積み重なっていることが見て取れます。（出席時に各自が思い描く学習について、その達成感を、◎は8割、○は6割、△は4割、×はそれ以下ということを目安に、自己評価してもらいます。）

Fig.3 学習後の満足度の割合



POINT この1年のデータからわかること

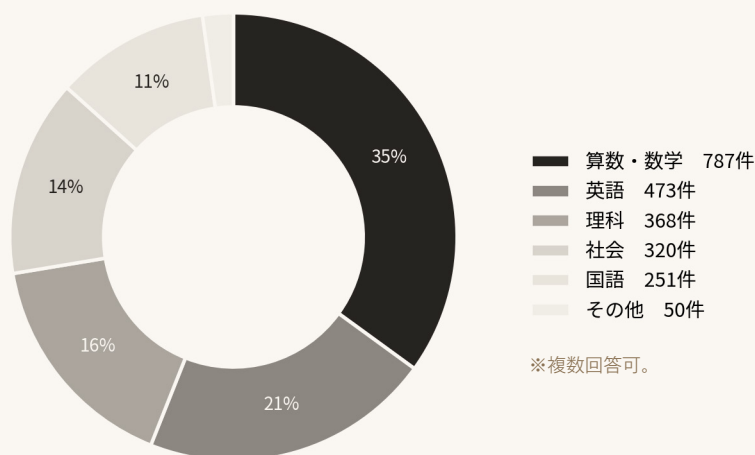
- 1 高評価率は年度はじめの66%から、2026年7月には76%まで上昇。通塾を重ねるほど「わかった」実感を得やすくなっている。
- 2 最も多い非認知的な育ちは「達成感」。次に多いのは「自分で考え、調べる」姿勢で、教わる学びより自走する学びが育っている。



科目バランス — 何をどれだけ学んでいるか

特定の科目に偏らず、算数・数学を中心に、英語・理科・社会・国語までまんべんなく学習記録が残っています。共生舎は一斉指導ではなく、その日その生徒が必要とする科目・内容に取り組む形をとっているため、このバランスは、生徒それぞれの必要に応じた学びが積み重なった結果とも言えます。

Fig.4 学習記録の科目別割合



AFTERWORD

あとがき

52名、1,499件、2,163時間。

部活や習い事で忙しかった日も。成長の段階のどこかで悩みを抱えていた日も。

「できた!」「わかった!」を目指す努力の積み重ねが、ここにあります。

生徒さん一人ひとりの個性や置かれた状況を大切にしながら、目先の試験や評定、合格だけではなく、その次の「できた!」「わかった!」を自分の力で生み出していけるように――

そんな想いを積み重ねてきた、実践の記録でもあります。

決められた科目を、決められた時間に学習するのではなく、

その日のコンディションで、あるいはスケジュールを見ながら、必要な学びを自分で選択するという方式は、一般的ではないかもしれません。

しかし、このデータから、当教室が「ひとりひとりが、自分の学びの主人公であること」を実感できる学びの場であることを示していると、あらためて見て取ることができたと思います。

これからも、主体的な学びを支える学びの場としてあり続けるため、力を尽くしてまいりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

共生舎 代表 高橋 慎吾